

13 新校長との軋轢(あつれき)



後任の岡村校長は、哲太郎が教員たちの厚い信任と生徒たちの思慕(しぼ)を受けていることに嫉妬(しつと)し、自分の自慢や哲太郎の悪宣伝など陰湿な方法で事ごとに嫌がらせを行いました。哲太郎は周囲の人々から慈父(じふ)の如く慕われていて効果はありませんでした。大正8(1919)年、哲太郎が勤続20年を迎え、台湾人先生や生徒たち大甲街民からも勤続20年祝賀会を行う話が上がり、8月10日と定め料理も準備されました。入院中の校長は「自分が入院中なので祝賀会は遠慮してくれ」と発起人に申し入れました。生徒たちは校長には関係ないことなので予定どおり挙行しようとしたところ、校長は新たな手を打ちました。前日台中庁の教育係から哲太郎に「会に出席してはならぬ」と電話があり、教え子は憤慨し、断固やるべきと哲太郎に話しますと「命令は命令だ。しかし君たちがやると言うなら俺は出席する」と答えました。教え子たちは哲太郎の決心に感激しましたが、「先生に迷惑をかけてはいけない」とあきらめ、式典後の祝賀会は泣く泣く中止となりました。